

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

サシバ

Butastur indicus (Gmelin, 1788)

東淳樹（岩手大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：東淳樹，2026. サシバ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 584-589.

Citation: Azuma, A., 2026. *Butastur indicus* (Gmelin, 1788). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 584-589.

タカ目 Accipitriformes タカ科 Accipitridae

サシバ

Butastur indicus (Gmelin, 1788)

カテゴリー判定結果		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)		A2	
基準 A: VU	基準 B: —	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —	
A2. 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 【比較年】 10 年（世代時間不明） 【過去の状況】 沖縄県宮古島市は、日本本土で繁殖したサシバのかなりの割合が通過すると一般に考えられており、その中でも伊良部島はその飛来数割合が高いとされている（久貝 1997）。この島での飛来数調査の結果は、日本本土に生息するサシバの個体数を間接的に知る手掛かりとなる。伊良部島で毎年実施されているサシバの秋の渡りの飛来数カウント調査において、2010 年から 2014 年の各年のサシバの飛来数の平均は 14422 羽だった。 【近年の状況】 伊良部島で実施されているサシバの秋の渡りの飛来数カウント調査において、2020 年から 2024 年の各年のサシバの飛来数の平均は 9455.2 羽だった。					
評価分科会： 鳥類分科会					

概要

日本、朝鮮半島、中国東部で繁殖し、南西諸島、中国南部、東南アジアで越冬する。日本では東北地方南部から近畿地方にかけてが主要な生息域である。生息数はまだ少ないが、関東南部では生息数が激減し、自然環境保全基礎調査の鳥類繁殖分布調査の比較でも生息確認メッシュ数に減少傾向があり、渡り中継地での記録数に継続的な減少傾向が見られる。主要な生息環境である里地環境に悪化傾向があり、今後も改善が難しいと考えられる。

基礎情報

【形態】

全長約 50 cm、翼開長は 102 cm から 115 cm で、ハシボソガラス大の中型の猛禽類。頬は灰色で、薄い眉班があり、喉は白く中央に黒い縦線がある。背、翼の上面は褐色で、下面は胸は濃褐色で腹は白く、褐色の横斑がある。尾には褐色の横斑がある。

【生活史】

日本では九州以北から青森県にかけて繁殖し、3 月中旬から 4 月上旬にかけて、繁殖地に飛来し、造巢を開始する。4 月中旬から 5 月上旬に 2 から 4 卵（多くが 3 卵）を産卵し、抱卵期間は約 1 月、巢内の雛は 2 から 3 羽、育雛期間は約 5 週間で 6 月下旬から 7 月上旬に巣立つ。9 月中旬から 10 月下旬が国内での渡り期間で、ピークは本州から九州が 10 月上旬、南西諸島では 10 月中旬である。日本では奄美大島以南の南西諸島、海外では台湾、フィリピン、インドネシア等で越冬する。ヘビやトカゲなどの爬虫類やカエルなどの両生類、バッタやセミ、蛾の幼虫などの昆虫類を主な食物とするが、ネズミ類など小哺乳類や小型鳥類も捕食する。

【生息環境】

平地から山地の森林と草地が混在する環境に生息する。特に、水田と森林が混在する谷津田では生息密度が高い。水田や草地に隣接した樹林に営巣し、草地や湿地、樹冠の葉面のカエルやトカゲなどの両生・爬虫類や、ネズミなどの小哺乳類、バッタなどの昆虫類を捕食する。森林地域に生息する個体は、林内においても捕食を行う。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】森林，草地，田地・畑地，耕作放棄地 【陸域_平地部】森林，草地，田地・畑地，耕作放棄地，ため池・池沼
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域

【分布域】

日本、朝鮮半島、中国東部やロシアのウスリー地域で繁殖し、南西諸島、中国南部、東南アジアで越冬する。日本では東北から九州にかけて繁殖し、奄美諸島や沖縄、八重山諸島で越冬するものがある。

現在の生息状況

【分布域の現況】

本州・四国・九州の広い範囲で、平地から山地まで繁殖するが、生息数の多い地域は近畿・東海・中部・関東・東北の丘陵地である。関東地域は、北関東の茨城県や栃木県では生息密度の高い地域もあるが、埼玉県や千葉県では生息数の減少が続き、東京都や神奈川県ではほとんど営巣確認ができないほど生息数が少ない。第 2 回、第 5 回、第 6 回自然環境保全基礎調査の鳥類繁殖分布調査（1997-2002）と全国鳥類繁殖分布調査報告（2016-2021）の比較でも生息確認メッシュ数に減少傾向がある。

【生息地の現況】

生息数の多い丘陵地では、土地改良事業による乾田化、減反や後継者不足、米価の下落による水田の耕作放棄、宅地造成や道路開発等、近年では太陽光発電敷設による水田や樹林の消失が起こっている。また、道路脇や水田の畔の除草剤使用により、繁殖期間中の草地環境の消失も起こっている。これらは、採食場所の消失や食物資源となる両生・爬虫類や昆虫類の減少を引き起こしている可能性が高い。特に、大都市圏に近い関東南部や近畿地域では、この傾向が大きい。そのほかには、シカやイノシシからの農作物の食害を防ぐために設置される電気柵がサシバの狩り行動に悪影響を与えている報告がある。

【個体数の現況】

関東南部では各地で生息数が激減し、他の広い範囲でも減少傾向にあるとされる。総生息数を把握する調査はないが、沖縄県宮古島で宮古野鳥の会が中心となって 1973 年から実施している秋の飛来数調査が、日本国内に生息するサシバの生息数の指標となりうる。それによると、1980 年代前半までは約 3 万 8 千羽が確認されていたが、1980 年代後半から減少し、2000 年代には 2 万羽以下の確認となることが多い。また、1977 年～1980 年に大阪府河内長野市近郊で小島幸彦氏によって行われたサシバの生息調査を受けて行われた「サシバプロジェクト in 大阪」の 2000 年から 2015 年までの調査で、36 ペアが確認されているが、小島氏のデータと比較しても激減していることが明らかとなっている。

存続を脅かす要因

開発や農業形態の変化による主要な生息環境である水田と森林が複合する里地里山環境の悪化や減少、水田の圃場整備、農薬使用による食物となる両生・爬虫類の減少。メガソーラー開発による繁殖地の減少、渡り中継地における風力発電用風車タービンによる事故（バードストライク）。越冬地である南西諸島及び東南アジアの環境悪化。温暖化に伴う昆虫類の減少。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，圃場整備，草地開発，ゴルフ場，土地造成，交通インフラ建設，農薬汚染/化学物質汚染，捕食（在来種による），管理放棄，競争/競合（在来種による）
	（現在）	森林伐採，圃場整備，草地開発，土地造成，交通インフラ建設，農薬汚染/化学物質汚染，捕食（在来種による），管理放棄，競争/競合（在来種による），発電施設建設，人工構造物への衝突，気候変動

特記事項

越冬地の東南アジアでの生息状況についても、現状の把握が必要である。東北地方では、生息数の大きな減少は見られない地域が多いが、今後の水田の耕作放棄などの影響が考えられる。また、ネイチャーポジティブ、里山イニシアティブなど里地環境の保全に関する取組の推進は、サシバの保護・保全にも有効と考えられる。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サシバ	<i>Butastur indicus</i>	VU
第4次 2019:	サシバ	<i>Butastur indicus</i>	VU
第4次 2018:	サシバ	<i>Butastur indicus</i>	VU
第4次 2017:	サシバ	<i>Butastur indicus</i>	VU
第4次 2015:	サシバ	<i>Butastur indicus</i>	VU
第4次:	サシバ	<i>Butastur indicus</i>	VU
第3次:	サシバ	<i>Butastur indicus</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【青森県】重要希少野生生物(B ランク), 【岩手県】絶滅危惧Ⅱ類, 【宮城県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【秋田県】準絶滅危惧(NT), 【山形県】絶滅危惧ⅠB 類(EN), 【福島県】準絶滅危惧(NT), 【茨城県】絶滅危惧Ⅱ類, 【栃木県】絶滅危惧Ⅱ類(B ランク), 【群馬県】絶滅危惧ⅠB 類(EN), 【埼玉県】絶滅危惧ⅠA 類(CR)(繁), 【千葉県】最重要保護生物(A), 【東京都(本土部)】絶滅危惧ⅠA 類(CR), 【東京都(北多摩)】絶滅危惧ⅠA 類(CR), 【東京都(南多摩)】絶滅危惧ⅠA 類(CR), 【東京都(西多摩)】絶滅危惧ⅠA 類(CR), 【東京都(伊豆諸島)】絶滅危惧ⅠA 類(CR), 【神奈川県】絶滅危惧Ⅰ類(繁殖期), 【新潟県】準絶滅危惧(NT), 【富山県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【石川県】準絶滅危惧(NT), 【福井県】県域準絶滅危惧, 【山梨県】準絶滅危惧(NT), 【長野県】絶滅危惧ⅠB 類(EN), 【岐阜県】準絶滅危惧, 【静岡県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【愛知県】絶滅危惧ⅠB 類(EN)(繁殖), 準絶滅危惧(NT)(通過), 地域個体群(LP)(通過)(サシバの渡り群), 【三重県】絶滅危惧ⅠB 類(EN), 【滋賀県】希少種, 【京都府】絶滅危惧種, 【大阪府】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【兵庫県】B ランク, 【奈良県】絶滅危惧種, 【和歌山県】準絶滅危惧(NT), 【鳥取県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【島根県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【岡山県】絶滅危惧Ⅱ類, 【広島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【山口県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【徳島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【香川県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【愛媛県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【高知県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【福岡県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【佐賀県】絶滅危惧Ⅱ類種, 【長崎県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【熊本県】絶滅危惧ⅠB 類(EN), 【大分県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【宮崎県】準絶滅危惧(NT-g), 【鹿児島県】絶滅危惧Ⅱ類, 【沖縄県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

鳥獣保護管理法, 都道府県条例指定種【三重県】

参考文献

- 東淳樹, 2004. サシバとその生息地保全に関する地域生態学的研究. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告, 12: 1-119.
- 東淳樹, 2016. 日本のサシバの生息状況と生息地の環境条件. 地域自然史と保全, 38(2): 83-88.
- 環境省自然環境局生物多様性センター, 2004. 第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 343pp.
- 環境省自然環境局野生生物課, 2012. 猛禽類保護の進め方(改訂版)ー特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについてー. 環境省自然環境局, 東京, 86pp.
- 環境省自然環境局野生生物課, 2013. サシバの保護の進め方. 環境省自然環境局, 東京.
- 久貝勝盛, 1997. 伊良部の鳥. 平良市総合博物館紀要, 4: 35-56.
- 松江正彦ほか, 2004. 希少猛禽類の効率的な調査手法に関する研究. 国土技術政策総合研究資料 国土技術政策総合研究所, つくば市, 207: 155pp.
- 沖縄県, 2024. 令和6年度サシバ飛来数調査結果.
https://www.pref.okinawa.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/004/861/2024sashibakekka.pdf
(2025年7月9日確認)
- 大西敏一, 2020. 大阪のサシバの現状. ネイチャーおおさかスタディファイル, No.6: 1-6.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Butastur indicus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Butastur indicus* is listed as VU under criteria A2.

A. Reduction in population size based on any of the following:

2. An observed, estimated, inferred or suspected population size reduction of $\geq 30\%$ over the last 10 years or three generations, whichever is the longer, where the reduction or its causes may not have ceased OR may not be understood OR may not be reversible.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】 Forest, Grassland, Farmland, Abandoned farmland 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest, Grassland, Farmland, Abandoned farmland, Reservoir/Pond
Threat types:	Logging and wood harvesting, Field preparation, Grassland development, Land development, Transportation infrastructure construction, Pesticide/Toxic chemical pollution, Predation (by native species), Abandonment of management, Competition (with native species), Power plant construction, Collision with man-made structures, Climate change
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act. Prefectural Ordinance-Designated Species 【Mie】 .



©与名正三 (サシバ愛護会関西〜奄美ネットワーク)



©与名正三 (サシバ愛護会関西〜奄美ネットワーク)

執筆者:	東淳樹 (岩手大学)
Author:	Atsuki Azuma

公表年月：2026 年 3 月